

Financial Report

財政報告

寄付状況

2016年度は、一般寄付及び海外遺児募金に遺贈などのご寄付が集まり、合計で約6億5500万円の増加となりました。

2017年(1月~12月) あゆみ

■1月7~9日全国小中学生遺児のつどい(東京日野)、14日追悼と交流のつどい(兵庫神戸) ■2月12日あしなが心塾卒業式(日野)、24~26日あしなが運動全国会議、25日虹の心塾卒業式(神戸)、28日第二回賢人達人総会 ■3月5・11・12日3・11東北と神戸交流のつどい(東北各地)、18~20日全国小中学生遺児のつどい(日野)、23日第44回定時評議員会・第45回通常理事会 ■4月2日入塾式(日野・神戸同時開催)、20日遺児作文集「ここに虹がかかるまで」発刊、22・23・29・30日第94回あしなが学生募金 ■5月3~5日全国小中学生遺児のつどい(日野) ■6月3日「あしながアメリカ」年次理事会(NY)、17・18日大学奨学生在学採用試験、23日大学院奨学生在学採用試験、24・25日全国震災遺児のつどい(仙台)、28日第45回定時評議員会・第46回通常理事会 ■7月3日「100年構想」第四期候補生が勉強合宿開始、10日九州北部豪雨災害に緊急対応、住宅被害一時金(給付)の通知を当該地区在住の奨学生及び保護者に通知、15~17日全国小中学生遺児のつどい(日野) ■8月11~23日高校奨学生のつどい(全国8会場、3泊4日)、20~22日全国小中学生遺児・海水浴のつどい(兵庫姫路)、26~29日大学奨学生予約採用試験 ■9月1~5日大学・専修各種学校奨学生のつどい(西湖のつどい)、8~10日あしなが運動全国会議、11~20日学生募金事務局ウガンダ視察研修、26日あしなが育英会玉井会長がバリ政治学院で講演 ■10月7~9日全国震災遺児のつどい(日野)、21・22・28・29日第95回あしなが学生募金、コラボコンサート「世界がわが家」の記録映画「Daddy Long Legs」が完成、26日(上智大)、27日(明治大)で上映会 ■11月3~5日全国小中学生遺児のつどい(日野)、20日あしながロンドン事務所開所式、23~25日東西心塾生ウガンダ視察研修 ■12月6日第3回臨時評議員会・第20回臨時理事会にて、2018年度からの「給付型奨学金制度」開始を正式決定

ご寄付・郵便振替口座一覧

- ① 00140-1-541731 あしなが育英会
=活動全般に対する寄付口座
- ② 00180-0-15595 あしなが育英会あしながさん奨学金係
=奨学金(あしながさん専用口座)
- ③ 00140-6-98241 虹のかけはし会員
=神戸虹の心塾レインボーハウス運営資金
- ④ 00130-7-776732 あしなが東日本大震災遺児支援募金
=東日本大震災遺児を支援する全般的なご寄付
- ⑤ 00150-3-734125 あしながアフリカ遺児教育支援
=アフリカ遺児を世界中の大学に進学させるなど「100年構想」資金
- ⑥ 00120-0-568630 ウガンダ虹のかけはし会員
=ウガンダレインボーハウス運営資金

※クレジットカード、コンビニエンスストアからも送金いただけます。
詳しくはウェブサイトwww.ashinaga.org、またはあしなが育英会総務課まで

2016年4月~2017年3月収支報告

■収入の部

一般会計	寄付金収入	4,075,975,389
	奨学金返還金収入	1,610,145,930
	前期前払金戻り収入	37,034,360
	特定資産取崩収入5件	203,981,364
	その他収入	7,883,100
小計①	5,935,020,143	
東日本大震災津波特別会計	寄付金収入	470,068,046
	前期前払金戻り収入	1,060,000
	特定資産取崩収入1件	952,200
	その他収入	356,021
	小計②	472,436,267
法人会計	一般会計より繰入	300,000,000
	特定資産取崩収入1件	53,790,345
	その他収入	3,981,151
	小計③	357,771,496
当期収入合計	当期収入合計④ ※①+②+③	6,765,227,906
	前期繰越収支差額	3,867,993,744
	収入合計⑤	10,633,221,650

■支出の部

一般会計	奨学貸与金	2,332,245,000
	奨学給付金	7,200,000
	熊本地震支援特別一時金	28,500,000
	奨学・返還事業費	115,199,279
	教育事業費	469,600,434
	心のケア事業費	65,790,910
	広報・調査研究事業費	74,266,002
	海外遺児支援事業費	782,919,944
	募金事業費	252,102,591
	法人会計へ繰入	300,000,000
	経費前払金	30,136,132
	その他	38,861,786
	小計⑥	4,496,822,078
東日本大震災津波特別会計	東日本大震災津波遺児支援事業費	186,553,435
	東日本大震災遺児支援積立金へ繰入	1,848,243
	経費前払金	1,000,000
	その他	6,364,227
	小計⑦	195,765,905
法人会計	管理費等	252,643,684
	その他	101,637,865
	小計⑧	354,281,549
	当期支出合計⑨ ※⑥+⑦+⑧	5,046,869,532
当期収支差額 ※④-⑨	1,718,358,374	
次期繰越収支差額 ※⑤-⑨	5,586,352,118	

■寄付口収入内訳

寄付口	寄付者数(人)	寄付件数(件)	寄付金(円)
あしながさん	31,095	246,488	1,258,009,042
ファイトがん遺児募金	58	154	2,479,692
一般寄付	9,536	19,014	1,523,608,106
虹のかけはしさん	5,512	43,860	119,536,206
あしながレインボーハウス募金	40	146	1,063,344
あしなが心塾建設募金	44	138	1,673,547
東日本大震災遺児支援募金	6,355	32,578	470,068,046
海外遺児心の支援	199	278	760,714,719
アフリカ遺児教育支援募金	2,236	2,645	66,269,240
ウガンダ虹のかけはしさん	526	832	6,102,111
合計	55,601	346,133	4,209,524,053

※寄付金収入には、あしなが学生募金(92回、93回)、熊本地震支援募金計158,964,938円が含まれる。

あしなが育英会 2018年(平成30年)2月

本 部 〒102-8639 東京都千代田区平河町1-6-8 平河町貝坂ビル
TEL:(03)3221-0888 FAX:(03)3221-7676
あしなが心塾レインボーハウス 東京都日野市百草892-1

一部写真:渋谷敦志

神戸レインボーハウス 兵庫県神戸市東灘区本庄町1-7-3
東北事務所 宮城県仙台市青葉区五橋2-1-15
海外事務所 あしながウガンダ、あしながセネガル
あしながアメリカ、あしながイギリス、あしながフランス



あしなが学生募金



レインボーハウス



あしながウガンダ



ランドセル寄付



高生生のつどい・乗鞍



大生生のつどい・西湖

トピックス 1 給付型奨学金

あしなが育英会は、2018年度から奨学金に給付制度を導入することを決定しました。対象者は来年度の奨学生全員で、現行の貸与額に加えて、高校生は月額一律2万円、大学生と専修・各種学校生は3万円、大学院生は4万円を上乗せで給付します。高校卒業後に就職を希望する人の44%が経済的理由をあげています(16年度調査)。また、大学奨学生の60%が有利子を含む他団体の奨学金を併用しています(17年度調査)。依然として厳しい教育環境におかれている遺児が、アルバイトに追われ学業がおろそかになることがないように、また、多額の奨学金による将来の不安を抱かせないように、各奨学金を増額し、増額分は給付とすることを決定しました。



100年構想生募集告知、CTBTO(包括的核実験禁止条約準備委員会)事務局長のラッシーナ・ゼルボ氏によるCTBTOでのインターンシップご提案、チリの歌手ケコ・ユンゲ氏によるウガンダでの無償の音楽教室開催など、賢人達人から数多くの支援が提供されました。

賢人達人会は4年目を迎え、ますます、その存在感を増しています。2018年3月には京都で第三回「賢人達人会」総会を予定していますが、次回総会も100年構想プロジェクトを大いに後押しする、実り多い会議となるに違いありません。

トピックス 3 シアンスポ講演



歴代フランス大統領ら多くの世界的リーダーを輩出してきたパリ政治学院(シアンスポ)で9月26日、玉井義臣会長の特別講演が行われました。あしなが育英会の賢人・達人でもあるフレデリック・ミオン学長の、「人生のすべてを世の中の不幸を改善することに捧げてきた玉井会長の姿を、ぜひ学生に見せたい」という強い希望によって実現。

トピックス 4 あしながロンドン事務所

2017年11月20日、英国下院の1室をお借りして「あしながロンドン事務所」の開所式を開催。会場の利用は「アフリカ100年構想」に共感したデイビッド・ウィレット卿(英国貴族院議員)の格別の計らいによって可能となりました。鶴岡公二駐英大使、ウィレット卿、エリック・トーマス卿、世界的舞台演出家のジョン・ケアード氏、駐英アフリカ各国大使、欧州15大学関係者らが出席。アフリカ100年構想生を代表して、ガーナ出身で英国に留学中のセナさんが「法廷弁護士になり、祖国の孤児院の子どもたちを支えたい」とあいさつ。会場は感動に包まれました。



トピックス 2 第二回「賢人達人会」総会



「賢人達人会」は、本会の推進する「アフリカ遺児高等教育支援100年構想」プロジェクト支援のために2014年に発足した機関であり、世界中から各国を代表する知性と見識の持ち主やスーパースターに就任いただいています。(現在34か国から94名が参加)

2017年2月28日(火)、第二回「賢人達人会」総会を東京で開催しました。総会では、100年構想プロジェクトの課題について活発な議論が交わされ、多くの有用なご提案をいただきました。また総会をきっかけに、その後いくつかの具体的な支援に結び付けました。

例えば、英国のエリック・トーマス卿による本年10月の本会ロンドン事務所開所式へのご協力、南アフリカの国民的歌手チャカチャカ女史による自身のフェイスブックでの

過酷な環境では見えない世界がある。
「あしながさん」がくれた誇りを胸に希望の世界が見えてくる。

奨学金事業

17年度の奨学金貸与総額は22億円の見込みです。新規に高校生755人、大学生419人、専修・各種学校生238人、大学院生5人の計1,417人を奨学生として採用しました。全奨学生数は4,584人です(2017年12月31日現在)。

あしなが奨学金を借りている遺児家庭で母子家庭の平均勤労年収は155万円(17年4月入学者の申請書より)で、遺児母子世帯の全国平均256万円(厚労省全国母子世帯調査より)の60%と、経済的に特に厳しい状況でした。そのため、大学奨学生では、他の奨学金を併用している人が60%でした。

奨学金の貸与累計(1988年4月～2017年12月)

奨学金の種類	貸与金額	採用人数	貸与累計額	
高校・高専	国公立	月25,000円	32,426人	26,694,385,000円
	私立	月30,000円		
大学・短大	一般	月40,000円	8,826人	14,473,430,000円
	特別	月50,000円		
専修・各種学校	一律	月40,000円	2,342人	2,225,675,000円
大学院	一律	月80,000円	149人	292,620,000円
入学一時金	私立高校	300,000円	(2,267人)	679,500,000円
	私立大学	400,000円	(1,183人)	473,200,000円
進学仕度一時金	高校	400,000円	(371人)	296,000,000円
	合計		46,910人	45,134,810,000円

年度別奨学金貸与状況・あしながさん推移

年度	奨学金		あしながさん		総数
	貸与人数	貸与額	寄附額	新規	
2011年度	5,974人	22.6億円	13.5億円	7,996人	34,077人
2012年度	5,915人	23.2億円	13.7億円	3,670人	35,033人
2013年度	5,692人	22.7億円	13.8億円	2,429人	34,987人
2014年度	5,429人	22.4億円	13.5億円	1,587人	33,512人
2015年度	5,130人	22.2億円	15.9億円	1,654人	32,528人
2016年度	5,065人	23.5億円	12.6億円	1,341人	31,095人
2017年度	4,584人	21.9億円	12.7億円	1,482人	29,471人

※2017年度は見込み数

学生募金

第94回あしなが学生募金が4月22日、23日、29日、30日に開催され、募金額は1億555万4718円となりました。第95回学生募金は10月21日、22日、28日、29日(高崎、愛知、福岡、沖縄は別日程)に開催されました。95回募金は2週にわたって台風が日本列島を直撃。多くの拠点が活動中止となりました。そのため、募金額は30年ぶりに約8千万円を下回りました(12月現在)。全ての募金は日本の遺児奨学金とアフリカ遺児高等教育支援百年構想資金として、本会に二分の一ずつ寄付されました。2回の募金活動では全国の遺児大学生とアフリカや世界各国からの留学生、中高生を中心とするボランティアのべ2万人が150か所の街頭で募金を呼びかけました。

返還事業

年度別奨学金返還状況

年度	要返還額	回収額	返還率
2012年度	14.7億円	13.0億円	88.3%
2013年度	15.3億円	13.9億円	90.4%
2014年度	16.3億円	14.9億円	91.3%
2015年度	17.0億円	15.8億円	93.0%
2016年度	17.3億円	16.1億円	92.7%
2017年度(見込)	17.5億円	16.2億円	90.0%

奨学金の返還累計(1988年12月～2017年12月)

奨学金の種類	要返還額(円)	返還額(円)	返還率	総返還者数(人)	未返還者数(人)
高校・高専	13,418,784,219	12,725,642,694	94.83	29,624	9,554
大学・短大	6,059,284,706	5,836,768,169	96.33	7,249	1,810
専修・各種学校	732,762,616	693,000,041	94.57	1,779	307
大学院	85,309,200	81,815,400	95.90	132	11
合計	20,296,140,741	19,337,226,304	95.28	38,784	11,682

17年度の要返還額は17億5000万円程度を想定しており、そのうち9割程度が回収可能な見込みです。

今年度は、昨年度行った返還者への電話ヒアリングに引き続き、「返還者の声」という自由記述式のアンケートを募集しており、現在回収を行っております。アンケートの回収後には可能な項目の集計と、自由記述欄の傾向分析などを行い、今後の奨学金業務に活かしていく予定であります。「返還者の声」の一部を紹介します。「貸与中に行われる夏のつどいや学生募金が、現在の生活の礎になっている」「夏のつどいで出会った友とは、ずっと交流が続いている」という返還者がいる一方で、「なんとか返還を続けているが、ギリギリの生活で返還金の工面に苦慮している日々」「非正規雇用で低賃金のため、毎月の返還額を減額してもらえないだろうか?」という返還者もあり、回収できていない9割が皆、苦勞なく返還金を捻出できている訳ではないという現実が浮き上がってきます。

返還者への通知を送付する際には、想定されるライフイベントに伴う返還手続きの方法などを告知し、返還を放置することがないように呼びかけております。

遺贈

遺言書に遺産寄付先を記しての寄付を「遺贈」といいます。あしなが育英会では遺贈によるご寄付をお受けしています。本会奨学金は返還(無利子)されて、次の遺児たちの奨学金になりますので、ご寄付者の意思が末長く生き続けることとなります。



教育事業

つどい



2017年度「奨学生のつどい」のテーマは、全会場共通で「志高くWORK HARD」。世界約30か国から集まったインターン生、日本に留学中のアフリカ遺児に加え、昨年から日本留学中の外国人学生も参加し、国際的なつどいを作りました。

「高校奨学生のつどい」は8月に全国8会場で開催し、高校生771人が参加しました。同じ奨学生の大学・専門学校生がリーダー役を務め、海外からのインターナショナル・スチューデントは、世界各地の異なる文化で培った経験や英語でのコミュニケーションを通じて、日本人高校生遺児たちに「新しい価値観との出会い」や「将来の夢や学ぶ意欲を世界に広げる」重要な役割を果たしました。「大学・専修各種学校奨学生のつどい」は山梨県・西湖畔で9月に開催。320人の学生が参加しました。「変わる世界。君の志行で

生き抜け!!!」をキャッチフレーズに28か国の外国人学生とともに、チームビルディングやディスカッション、海外文化クラス等のプログラムを通じ、激変する世界、自らの将来と学生生活について真剣に考えました。

海外留学研修

18年度は25名前後の学生を研修生として8か国10都市に派遣する予定です。JICA中期インターンプログラムにも1名の学生が採用され、タンザニアへの派遣が決まっています。17年度研修生26名は18年2月に帰国し、東京で開かれる帰国報告会で1年間の研修の成果を発表します。

17年8月に南カリフォルニア日系商工会議所の招待で2名の学生がロサンゼルス短期研修に参加したほか、ライオンズクラブ(国際協会330-A地区)のご支援で、3月に1名の学生がタイで、8月に4名の学生がロサンゼルスで国際キャンプやホームステイを体験しました。



学生寮「あしなが心塾」「虹の心塾」

学生寮である「心塾」は東京都日野市と兵庫県神戸市にあります。17年は日本人学生11人(東京10人、神戸1人)と留学生6人(東京2人、神戸4人)が卒業しました。12月末現在、東京70人(留学生3か国5人)、神戸33人(留学生7か国14人)の遺児学生が生活を共にし、毎月2冊の読書感想文(東京のみ)やTOEIC講座など様々なカリキュラムに取り組んでいます。また、各国からのインターンを約9か月間受け入れました。塾生らはインターンと同部屋での共同生活や、語学レッスンを通して英語や異文化について日常的に学んでいます。11月にはウガンダでの短期研修に12人(東京9人、神戸3人)の塾生が参加し、現地でのホームステイや難民キャンプ訪問などを体験しました。日本で学んでいる留学生の生家を実際に訪問するなど、アフリカの貧困問題への理解を深めました。

出来るだけ多くの高校生に心塾について知ってもらうため、全国各地で行われた高校奨学生のつどいや、大学奨学生採用試験で告知や説明会を行った結果、来年度は50人(東京38人、神戸12人)の入塾が決定しています。



心のケア事業

東北レインボーハウス

東日本大震災からもうじき7年。出来事は時間的には過去になっていきますが、その影響は子どもたちの成長につれて様々に現れています。行方不明のままの家族がいる子どももいます。年齢別のプログラムや家庭訪問などできめ細かくつながることを実践しました。

仙台

月2回のワンデイプログラム(子どもグリーンサポートステーションと合同開催)の他、全国の震災遺児を対象にした年齢別宿泊プログラムの他、初めての海のプログラム「シーカヤック」にチャレンジ。笑顔で「震災後初めて海で遊んだ」という声には様々な思いが。

石巻

小中学生になった子どもたちの参加が増えました。継続的に参加している子どもたちはまるで兄弟のような。12月の「こどもぼうねんかい」では練習を重ねたピアノを披露したり、頑張っていることを発表しました。

陸前高田

広域の岩手県を対象にキャンプなどの新しいプログラムにチャレンジ。家庭訪問に力を入れつつ放課後などにゆるやかに参加できる「中高生開館日」で進路の悩みなどを聞きました。子どもを支える諸団体と「子どもフェスタ」を開催、地域のファシリティにも。



東北



東京



神戸

あしながレインボーハウス

2017年、あしながレインボーハウスの活動は満10年を迎えました。4月にあしなが・神戸レインボーハウス合同で作文集「こころに虹がかかるまで」-親を亡くした子どもたちの作文と成長記録-(A5判61ページ)を発刊しました。

現在プログラムに参加している小中学生遺児の作文ほか、10年前の開館当初に参加者として来館していた遺児が現在の生活・将来の目標などをつづった作文が収められています。希望者には無料で配布いたします。

2017年は「全国小中学生遺児のつどい」を6回と日帰りの「ワンデイプログラム」を10回開催し、延べ355人の遺児と161人の保護者が参加しました。8月には昨年に引き続き「海水浴のつどい」を神戸と合同開催し、全国から約60名と多くの遺児が参加しました。海水浴が初めてという子どももおり、親元を離れての経験に成長した様子が見られました。

レインボーハウスにつどい遺児たちの声に耳を傾け、彼らの心に寄り添いながら活動を進めています。

神戸レインボーハウス



17年は、年間11回、小中学生を対象に日帰りのケアプログラム「グループタイム」と「虹の寺子屋」を開催しました。「グループタイム」では遺児達の思いに寄り添いながら遊び、継続的な関わりの中で遺児同士やファシリテーターと亡くした親、家族、学校のことを話す時間をもちました。学習支援「虹の寺子屋」では居場所作りを心掛けながら、学校の復習を中心に勉強しました。

お花見、陶芸、乗馬、クリスマスといった「日帰りのつどい」では遺児も保護者も集まり交流の時を持ちました。顔馴染みの方、初めて来られる方、様々な交流が生まれています。「クリスマスのつどい」はファシリテーターを含め100名を超える参加者となりました。また、来館していた遺児達を対象に「同窓会」を開催。思い出話に花が咲き、神戸レインボーハウスの意義や役割を振り返る一時となりました。

18年も17年と同様、子どもやファシリテーターの繋がりを大切に、心のケアと成長を目的としたプログラムを開催していきます。

国際事業

アフリカ遺児高等教育支援 100年構想事業

アフリカ遺児高等教育支援100年構想事業では、現在2017年度第4期生を迎えて、総勢109人の海外留学支援を行っています。既に留学を果たしている3期生まで67人の留学先の内訳は、日本10人、イギリス及びアイルランド20人、フランス及びヨーロッパ諸国16人、オーストラリア3人、ブラジル4人、アメリカ及びカナダ13人、ポルトガル1人です。

2017年度に留学を開始した第3期生は、ワールド・ユニバーシティ・ランキングのトップ100大学にも多数入学しています。これはアフリカにおける100年構想プログラムの周知及び募集を強化した成果の表れであり、また、ウガンダ、セネガルでの勉強合宿が強化された結果であるといえます。

ウガンダ事務所・心塾・レインボーハウス

●ウガンダ事務所・心塾

2017度初頭、あしながウガンダの現地代表が山田優花から今村嘉宏へと代わりました。日本への留学生が増えている現状に合わせて、常駐の日本語教師も就任しました。現在あしながウガンダ心塾には23人の奨学候補生が生活しています。それを支えるのは12人のスタッフ。ウガンダ事務所の主な役割は、アフリカ英語圏・ポルトガル語圏の奨学生の募集と書類審査、面接などの採用に始まり、奨学候補生が決定した後は、大学への出願、ビザの手配、留学に向けての勉強合宿と渡航前準備合宿の開催など、留学を実現するための全ての業務を行っています。

●ウガンダレインボーハウス

現在、ウガンダ・レインボーハウスには835人の遺児が登録されており、その中の64人が寺子屋で勉強をしています。リーダー育成奨学金を受けている学生は、中学生22人、高校生4人です。最近では、語学、算数などの基礎勉強に加えて、クラフトクラブやダンスクラブ、野球クラブなどのクラブ活動にも力を注いでいます。

セネガル事務所・心塾



セネガル事務所は、モーリタニア、マリ、ブルキナファソ、ベナンなど、サブサハラ・アフリカのフランス語圏の学生の募集、採用、勉強合宿、大学への出願、渡航手続きなどを行っています。現在は、19人の第4期奨学候補生を9人のスタッフでサポートしています。また、独自の取り組みとして、現地の大学生、小学生を対象とした奨学金事業など教育支援にも力を入れています。遺児を対象とした奨学金は、大学生が5人、小学生は20人と小規模ですが、アフリカの貧困削減に貢献できる人材の育成を目指しています。



その他の拠点

アメリカ事務所

アメリカ事務所では、アメリカ、カナダに留学している16人（アメリカ14人(0期生3人含む)、カナダ2人）をサポートしています。スタッフは5人。夏のオリエンテーションキャンプ、つどい、日々の学生指導、大学との連携・奨学金獲得、現地NPO団体との関係構築、支援者連携などを行っています。



フランス事務所

現在3人のスタッフが常駐するフランス事務所では、ストラスブール大学などに通う16人の100年構想生をサポートしています。奨学生は、フランス各地の他、オランダ、チェコでも学んでいます。学生支援、アフリカやヨーロッパでのキャリア支援、ネットワーキング、インターンシップ、つどいの開催などの業務に加えて、アフリカでの奨学生募集や採用、勉強合宿での指導や相談、渡航準備などを行っています。



イギリス事務所

イギリス事務所では、20人の学生を4人のスタッフでサポートしています。学生はブリストル大学をはじめとする、イギリス、アイルランドの大学で学んでいます。主な業務は、学生支援、大学との関係構築と奨学金の獲得などです。2017年度は玉井会長と下村博文副会長を迎えて、英国議会の下院にて事務所の開所式が行われました。



日本本部(東京)

あしなが本部では日本、オーストラリア、ブラジル、ポルトガルに留学している100年構想奨学生18人を担当しています。業務内容は、学生支援、大学関係構築、留学生つどい開催、卒業報告書指導、キャリア支援、ネットワーキング、インターンシップなど多岐にわたります。また日本に留学しているウガンダなどからの大学留学生18人・高校留学生6人、交換留学生3人も担当しています。



インターンシップ

今年度18か国の大学から90人余の学生たちがインターンとして選抜され、あしなが育英会本部(44人)、ウガンダ(28人)、セネガル(18人)において共にあしながの活動に取り組みました。インターンは6月から8月までの夏班、9月から12月までの秋班、1月から3月までの冬班に分かれて来日し、専門分野に応じて教育、翻訳、メディア、リサーチなどのチームに属して活動します。各地でのつどいや募金、東北研修などにも参加して、日本の奨学生とも交流しました。



広報

機関紙「NEWあしながファミリー」は、取材・撮影・執筆・編集も本会職員が行っております。タブロイド判で毎号約10万部・年6回発行しています。遺児奨学生やお母さんの生の声、あしなが運動などの詳細記事を掲載しています。遺児とご支援者の皆様、そして本会を結ぶ「心の新聞」をめざしています。

「ウェブサイト」(<http://www.ashinaga.org>)は本会情報発信の速報性・多様化に対応するため日本語版・英語版を運用しています。あしなが育英会の情報や活動報告、奨学金など最新情報を随時更新。18年3月にリニューアル予定。ウェブサイトからはクレジットカードによるご寄付のお申込み、イベント参加募集、ご意見なども受付けております。